

ホットな  
福祉情報誌

# はあとふる ふくしま

2024

3月

No.326



## 2023年度シリーズ ふくしまのみらい

寒さも吹き飛ばす  
キラキラな笑顔で  
「はい、ちーず!」  
(郡山市・柴宮保育所)



### 特集

スマホ・タブレットで気軽につながる  
SNSを活用した避難者とのつながり作り

シリーズ [未来へつなごう“ふくしま”から]

県内で初めて開設された特別養護老人ホームの  
変遷に思いをはせて



特集  
(( ZOOM UP ))

## スマホ・タブレットで気軽につながる SNSを活用した 避難者とのつながり作り

デジタル時代になり、日常的にSNSという言葉が飛び交うようになりました。SNSとはソーシャル・ネットワークサービス略で、簡単に言うとインターネットを使って交流することです。

SNSには「LINE (ライン)」や「Facebook (フェイスブック)」「Instagram (インスタグラム)」などがあり、スマートフォン (以下、「スマホ」) やタブレットがあれば、誰でも手軽に交流することができます。

今回は、大玉村社会福祉協議会 (以下、「大玉村社協」) におけるLINE公式アカウントを使った避難者とのつながりについてご紹介いたします。



LINE公式  
アカウント  
って何？

LINEを使っている人は国内で約9,600万人(※)にのぼり、幅広い年齢層に利用されています。LINEのユーザー(利用者)同士であれば、個人間または複数人でトーク(チャット)、音声通話・ビデオ通話が可能です。LINE公式アカウントとは、企業や店舗などが情報発信できるLINEの機能で、ユーザーが「友だち」に登録することで、質問をしたり様々なサービスを受け取ったりすることができます。 ※2023年9月末時点

# LINE公式アカウント導入の最初のステップとして スマホ教室を開催。基本的な操作を覚えてもらいました。

■コロナ禍の影響で  
外出しないことが  
日常的に

「震災以降、サロンやイベントなどで浜通りなどから村内に避難した方同士が顔を合わせる機会を増やしてきましたが、コロナ禍の影響もあって外に出ないことが日常的になってしまい、みんなで集まるという流れが一旦途絶えてしまいました」と話すのは大玉村社協避難者地域支援コーディネーターの石川さん。避難者の中には外出自粛の期間中に施設へ入所、転居した方などいて、連絡を取り合えなくなったことにストレスや喪失感を抱えている方もいるのだといいます。

こうした状況を改善していこうと、大玉村社協では、令和5年3月に県社協、県内市町村社協職員らと共に、LINE公式アカウントを導入している岩手県矢巾町社協、陸前高田市社協を視察しました。「LINE公式アカウントを使えば、電話



大玉村社会福祉協議会  
避難者地域支援  
コーディネーター  
いしかわりえ  
石川 理恵さん  
地域福祉係  
さかい のぶこ  
酒井 暢子さん

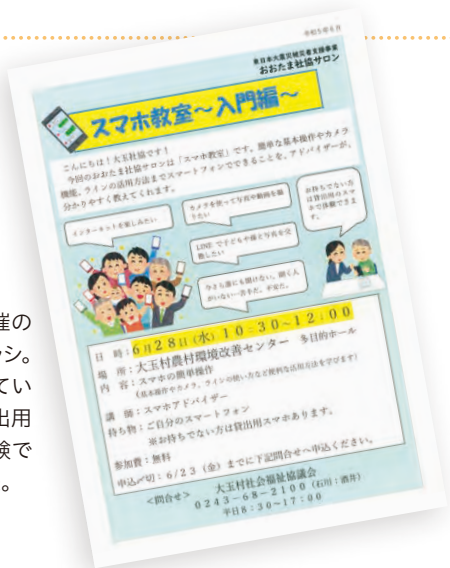
相談や対面相談に不安を感じる方も気軽に相談できる」「一斉送信機能でイベントの告知や福祉サービスの情報提供も簡単にできる」といったSNSを活用した新しい見守り支援について学びました。

大玉村社協では、早速LINE公式アカウントの導入を検討、3ヶ月の準備期間を経て、令和5年6月にLINE公式アカウントを立ち上げました。

■もっと気軽に楽しもう！  
「スマホ教室」を開催

大玉村社協では、スマホに慣れ親しんでもらおうと避難者を対象とし

た「スマホ教室～入門編～」を開催。スマホアドバイザーを講師に招き、スマホの基本操作、写真や動画の撮り方、LINEの使い方などを説明しました。「当日の参加者は10人で、6代後半から最年長は94歳の方が参加しました。参加者のほとんどがスマホは電話利用のみでしたが、1時間半の教室が終わると、みんなスマホの基本的な操作ができるようになりました」と酒井さんは話します。



スマホ教室開催のお知らせのチラシ。スマホを持っていない人でも貸出用のスマホで体験できるように工夫。

## スマホ教室 参加者の声

スマホを持っていても教えてくれる人が近くにいないので参加しました

マンツーマンで指導してくれているので学ぶことができました

写真を撮って友だちにメールを送りました。意外とカンタン！

大玉村のLINE公式アカウントに登録しました。すぐに返事が返ってきてビックリ！



「次はこのキーをタップしてくださいね」「どれどれ…なるほど！」終始笑顔の絶えない教室となりました。

## ■不安や困りごとを抱える前に つながっておきたいから

「東日本大震災の影響により大玉村で避難生活を送っている人は、令和6年1月時点で294人（135世帯）です。LINE公式アカウントを導入する一番の目的は、避難者ご本人やそのご家族が不安や困りごとを抱える前につながっておきたいからです」と酒井さん。とりあえず登録だけでもいい、いつでも話せるような状態をつくるのが先決と話します。

現在LINEの登録者は41名。個人からの相談はまだ少ないものの、サロンやイベントの告知をはじめ、サロン開催後の様子などを一斉送信することで参加者やLINEを見た方から感想が寄せられ、ゆるやかな



大玉村社協のLINE公式アカウントのトップ画面。登録者の中にはお孫さんやペットの写真をアイコンにしている方もいて、社協職員も思わずほっこり。



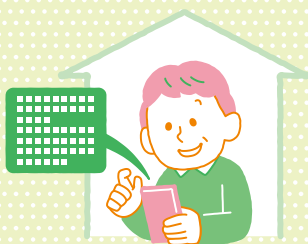
おおたま社協サロンの様子。この日はみんなで正月飾りを作りました。

つながりが生まれつつあります。「将来的には『庭の花が咲きました』『旅行に行ってきました』など、日常的なやりとりも交わせたらいいなと思っています。潜在化している課題や問題がある方でもLINEならつながることができるのでは」と石川さんは、SNSを活用したつながり作りに期待を寄せています。

## LINEでできる“つながり”

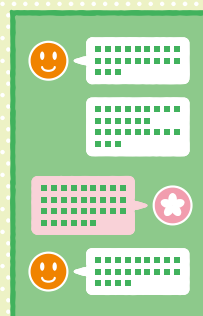
### 電話や面談での対応に不安がある方との連絡手段

直接会って話すことが苦手な方でも、LINEなら文字や写真、スタンプで気軽に伝えやすい。



### 平日仕事をしている方や若年層との連絡手段、留守時の対応

LINEであれば相手を読んだときに「既読」がつくため、確認しやすい。



### 災害時や困ったときなどの連絡手段



災害時や困ったときなどで電話が繋がらなくても、無料でインターネットにつながる公共施設や店舗に行けば連絡を取ることができる。

### サロンなどのイベント情報の配信

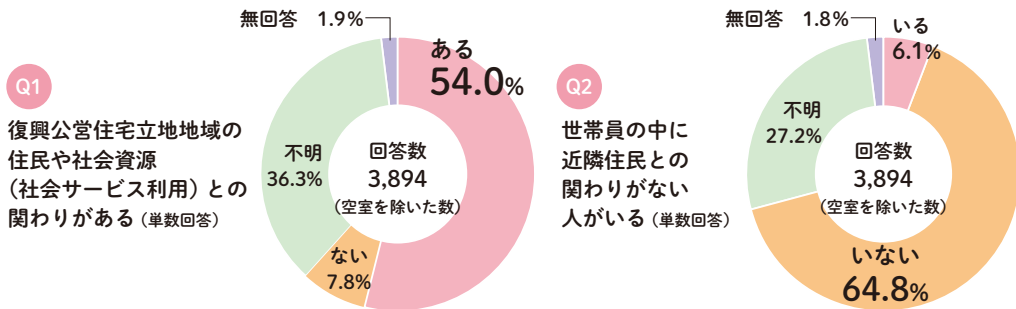


戸別訪問でチラシを配布できなくてもLINEであれば、情報を一斉配信できる。

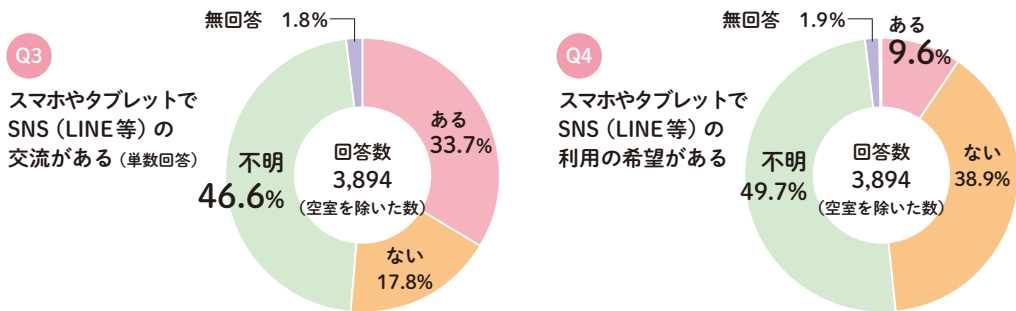
Report

県社協では、避難者の現在の生活の困りごとや課題を知るため、  
県内の復興公営住宅4,767戸を対象に実態の取りまとめを行いました。

県社協避難者生活支援・相談センターでは、復興公営住宅の入居者等が抱える不安や課題などの実態を把握し、具体的な見守り支援策を検討することを目的に、令和5年7月～9月の3ヶ月間で、県内の復興公営住宅4,767戸を対象とした実態調査を実施しました。調査方法は、これまでの支援状況からの生活支援相談員等による見立てにより行いました。現在結果報告に向けて取りまとめを進めています。以下、何点か調査結果をご紹介します。



他にも、日常生活と心身の健康、生計の維持等、各項目に分けて調査をしました。これらの結果を見ると復興公営住宅内で、社会的な関わりがない方が一定数いることや、日常の中で深い悩みなどを抱えた方がいることが分かります。このような方とつながる一つのツールとしてSNSの活用が挙げられます。以下、調査項目のひとつ、スマホやタブレットでSNS（LINE等）にかかる回答についてご紹介します。



これらの結果を見てみると、SNS（LINE等）を日常的に活用している世帯は3割程度にとどまっていることが分かります。これはSNSを利用することに否定的なのではなく、「使い方が分からない」「操作を知る機会がない」などが主な理由として考えられます。

今回事例でご紹介した大玉村社協のスマホ教室のように、SNSにふれる機会を増やしていけば、スマホは社協と住民をつなぐ有力なツールになり得ます。大規模災害時の安否確認をはじめ、豪雪地帯での一人暮らし世帯の見守りといった活用も見込まれます。

県社協避難者生活支援相談センターでは、現在、個別支援（点）と地域支援（面）をつなぐ一体的な取り組みを進めています。今回の実態調査の結果を踏まえ住民が抱える課題や思いを可視化し、一人で暮らしていても孤独を感じない見守りの仕組みづくりを、新しい資源であるSNSを活用しながら進めていきます。





上／県内初の特別養護老人ホームとして開設された「飯坂ホーム」の歴史や、生まれ変わった施設の特徴、地域との関わり合いなどを大河原園長より説明を受ける県社協の北村会長（随行：村島克典事務局次長）。下／介護職員として働くお二人にも話を聞きました。



# 県内で初めて開設された特別養護老人ホームの変遷に思いをはせて

社会福祉法人福島県社会福祉事業団  
特別養護老人ホーム 福島県飯坂ホーム

取材協力

社会福祉法人 福島県社会福祉事業団  
特別養護老人ホーム 福島県飯坂ホーム

福島市飯坂町字上原26-1 TEL 024-542-5124  
HP [http://www.fukushima-sj.jp/iizaka\\_home/](http://www.fukushima-sj.jp/iizaka_home/)



## 時代のニーズに対応して多床室からユニット型へ

社会福祉法人福島県社会福祉事業団「福島県飯坂ホーム（以下、飯坂ホーム）」は、福島県初となる特別養護老人ホーム（以下、特養）として1969（昭和44）年に開設された50年以上の歴史がある施設です。今回、福島県社会福祉協議会の北村清士会長が飯坂ホームを訪ね、その沿革や特徴、職員の働く思いなどを伺いました。

北村会長を笑顔で迎えてくれたのは、大河原園長と熊田次長。大河原園長は、飯坂ホームの開所当時の様子を振り返り「利用者の生活に必要なおむつなどは、生地を購入して一枚一枚職員がミシンで手作りしたそうです。福島県内にはまだ特養がなかったため、仙台市で職員研修を行ったり、国内だけでなく国外から視察を受け入れたりしたと聞いています」と説明してくれました。

この飯坂ホームが大きく生まれ変わったのが2015（平成27）年のこと。8人部屋の多床室からユニット型となり、利用者全員が個室でプライバシーを保ちながら、広々とした共有リビングで利用者同士が

一緒に食事したり歓談したりと、思い思いに過ごせる施設となりました。定員100名に対してほぼ満室で、主に要介護3以上の認定を受けた、平均年齢89歳の皆さんが、1ユニットに10人ずつ、10ユニットに分かれて暮らしています。

熊田次長は「ユニットごとにキッチンがあり、食事の時間になると、炊きたてのご飯や作りたての味噌汁の香りが食欲をそそります。先日は、好きなラーメンが食べたいという利用者のリクエストに応えたところ、とても喜ばれました」と、心あたたまるエピソードも教えてくれました。また、食事やレクリエーションの様子を撮影した動画も拝見することができ、利用者の暮らしぶりを感じることができました。

「皆さんの笑顔がうれしい  
ありがとう」がやりがい

現場で働く方の話も伺いたいとい



援助員の渡邊さくらさんと  
副主任ユニットリーダーの  
あまの たかのり  
天野孝則さん（左から）



# 赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)  
電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234  
メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp  
ホームページ https://akaihane-fukushima.or.jp/

皆様の募金により、  
「つながり」が生まれています。

まもなく東日本大震災から13年を迎えます。復興・災害公営住宅や避難先、転居先での新たなコミュニティづくり、避難解除となった地区や津波等で被災した地区のコミュニティの再生を目的とした地域活動を支援するため、福島県共同募金会では「令和5年度赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金2』被災地住民支えあい活動助成事業」を実施してきました。今月号では、今年度助成を受けた団体からお寄せいただいたメッセージをご紹介します。



## 双葉町結ぶ会

(助成事業名：年末年始親睦会)

「双葉町結ぶ会」は令和5年7月に、双葉町民の親睦と助け合いを目的として設立されました。この度は、令和5年12月23日に忘年会とクリスマス兼ねて、双葉町駅西住宅集会所にて、双葉町帰還者、双葉町移住者でつかった「結ぶ会」を主に開催いたしました。双葉町は中野地区以外、駅周辺、町営住宅周辺に飲食店が一店舗もない中、「双葉町結ぶ会」は今まで、夏祭り、芋煮会などイベントを実施し、双葉町在住の人々のコミュニティをつなげるために参加費や寄付などでイベントを行ってききましたが、今回は「災害ボランティアNPO活動サポート募金2」の助成金をいただいたので、お弁当やケーキなど皆でおいしくいただきながら談笑・交流をし、とてもいい集まりにすることができました。

参加された方からは、「双葉町に帰還してもなかなか人と会える場がない中、集まれる場所、一緒に話せる機会がありよかった」などの感想もいただいております。もともと双葉町はないかもしれませんが、これから色々なイベントなどで皆が楽しいと思える場が増えたらいいと願います。今回の貴重なご支援ありがとうございました。年末の少し寂しくて慌ただしい時に皆さんと交流でき、楽しめる時間となりました。本当にありがとうございました。



利用者の居室などを見学しました。



園長のおおかわらゆうじさんと次長のくまたともなおさん (左から) 園長の大河原裕二さんと次長の熊田智真さん (左から)

う北村会長の申し出に添えてくれたのが、副主任ユニットリーダーの天野さん、援助員の渡邊さんのお二人。「利用者一人一人が自分のペースで穏やかに生活できるので、たくさんの笑顔が見られるのがうれしい」と微笑む天野さん。渡邊さんは「皆さんの個性を把握した上でケアすることが大事。『ありがとう』と言ってもらえるのが何よりのやりがいです」と元気に答えてくれました。

飯坂ホームは入所施設のため24時間サービスとなり、早番、日勤、遅番のほか夜勤も月に2〜4回ほどあります。利用者へのサービスを充実させるため、定期的な会議を通し職員間のコミュニケーションを密にし、職員が協力して食事や入浴を始めとする介護に取り組んでいます。「皆さんが高い意識を持って働いていることがわかり、心強く感じました。ますます増える介護ニーズに対応するため、リーダーの皆さんには、若い世代の育成にも力を注いでいただきたい」と北村会長。特養として歴史を大切にしながら、時代が求めるニーズに対応してきた飯坂ホーム。これからも利用者一人一人へ、職員が力を合わせ心からの笑顔をお届けしていきます。

県社協からのお知らせ

第27回いきいき長寿県民賞について～皆様からの推薦・応募をお待ちしています～

いきいき長寿県民賞は、年齢を感じさせない生き方をしている高齢者の方や積極的に社会参加活動を行っている高齢者団体を広く県民に紹介し、その功績を表彰するものです。みなさんの周りに、お心当たりの方(団体)はいませんか? ぜひ、ご推薦・ご応募ください!

**募集期間** 令和6年4月25日(木)～7月16日(火)

※当日消印有効

**募集対象**

- 主体的に社会とのかかわりを持ち続け、現在もいきいきと年齢を感じさせない生き方をしている概ね65歳以上の方
- 主体的に社会とのかかわりを持ち続け、現在も積極的に社会参加活動をし、いきいきと充実した生活を送っている概ね65歳以上の方で構成されている団体

※過去にいきいき長寿県民賞(いきいきライフ賞を含む)を受賞された方やエイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例に決定された方などを除く。

みなさんの地域に元気でいきいきと活躍されている方はいらっしゃいませんか?

**募集期間** 令和5年4月3日(日)～5月31日(日)まで(当日消印有効)

**募集対象** おおむね65歳以上の方で、いきいきと活動している個人や団体

**応募方法** 下記の書類を郵送で応募してください(FAX・メール不可)

- ① 所定の応募・推薦書 福島県社会福祉協議会のホームページからダウンロードできます
- ② 活動内容が分かる資料 履歴、雑誌、各会報誌、写真など上掲5枚

社会福祉法人福島県社会福祉協議会 いきいき長寿室  
 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 TEL(024)524-2224 FAX(024)524-2228  
 ホームページ: https://www.fukushimakenshakyo.or.jp

**お問い合わせ先** 福島県社会福祉協議会 いきいき長寿室 いきいき長寿県民賞係  
 電話 024-524-2224 FAX 024-524-2228

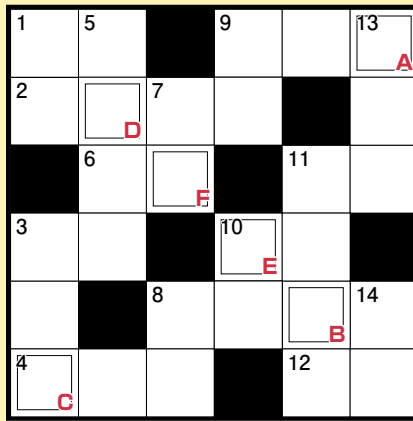
クロスワードにチャレンジ!

▶ヨコのカギ

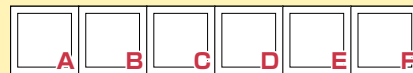
- ① ⇄ 凧
- ② 四字熟語『油断○○』
- ③ オセロではココを取ると有利に
- ④ 地獄、どん底、舞台の地下
- ⑥ 要領。○○をつかむ
- ⑧ 飲み物
- ⑨ 女性のゲストに向けて花嫁が投げます
- ⑩ 昆虫や鳥や焼き餃子にあります
- ⑪ 天気記号は『☉』
- ⑫ 最下位

▼タテのカギ

- ① 日本人はココがこってる人が多いとか
- ③ 「つくし」の正式名称
- ⑤ 本体価格 100 円の商品を 110 円と表記
- ⑦ くらがね。元素記号は『Fe』
- ⑧ ⇄ 薬
- ⑨ 戦うために作られた道具
- ⑩ 一寸法師が刀にした道具
- ⑪ 歴史上の出来事や語呂合わせから。今日は何の日?
- ⑬ 燃えるときに立ちのぼります
- ⑭ 童謡『大きな○○の木の下で』



全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



正解者の中から  
抽選で3名に  
プレゼントが当たる

今日のプレゼント

NPO法人コーヒータイム  
(二本松市)

アクセスホームさくぐ「ラスク」  
とのコラボ商品セット

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

**応募方法** ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

**締切** 令和6年4月15日(月)

**宛先** 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの応募はこちら!

多数のご応募ありがとうございました!

2月号の正解 「ハウジンワ」(法人の輪[和])

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。  
 ※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

1月号に寄せられた読者のおたよりから

介護職員を年間5万人ずつ増やしていかなければならないことに驚くと同時に、働きやすい職場環境の構築(給料や勤務時間等)を考え直す必要性を感じました。(70歳 無職)

ロボットに介護されるのは味気ないと思いましたが、介護の負担が軽減され、要介護者にとっても良いことであると理解できました。(67歳 パート事務)

現在民生委員3期目ですが、参考にしたいところが多く、いつも熟読しております。(79歳 無職)

編集後記!

SNSの発展は驚くほど早いですね。昨今は多くの企業が様々なSNSを活用して、魅力や日常を紹介しています。社協としても時代の流れにうまく乗りながら、地域に馴染んでいくことが大切だと考えました。(避難者生活支援・相談センター 青山矩仁)